

千葉日報

# 模型用エンジン世界で 高い技術力、 販路24カ国に 斎藤製作所(市川市) 【ちばの元気企業】

千葉日报社

2021/05/27 20:00



© 千葉日报社 模型用飛行機の下で並ぶ模型用エンジン＝市川市

模型用でありながら実物の飛行機に劣らぬ排気音に、美しい形状一。社長を含む総勢24人の「斎藤製作所」で製造する模型用エンジンは、世界に「SAIT O」の名で知られる。唯一無二の同社製品は模型用の飛行機、船舶に使われ、市川市を飛び出し、世界中の愛好家らに親しまれている。

同社は模型飛行機の愛好家だった故・斎藤源さんが1949年に創業。源さんは、太平洋戦争時に旧日本海軍の戦闘機、ゼロ戦などを手掛けた航空機メーカー、中島飛行機のエンジニアだった。経験を生かし、終戦後に模型用スチームエンジン製造を始めた。現在は2代目の満社長(76)。

同社製品は高度な技術力で生み出される。スチームエンジンは熱損失が少なく、短時間でスチームを発生させる形式を追求。万が一安全弁が機能しなくても、外部に破裂しない設計で「早く、長く遊べて、安全」(満社長)。75年には日本唯一の模型スチームエンジンメーカーとして中小企業庁に表彰された。

模型飛行機用エンジンの開発にも力を入れる。「2サイクルエンジン」が主力の時代に、燃費が良く実機に近い排気音が特徴の「4サイクルエンジン」の開発に成功。音も見た目も実機に近く、安価だったため斎藤製作所の名が世界に広まった。

2006年に、当時模型用エンジンでほぼ皆無だったガソリンが燃料の「4サイクルエンジン」を開発。アルコールにニトロメタン、潤滑油を混合させた従来の燃料より使い勝手が向上した。満社長は「購入してもランニングコストが高く、模型を使わない人もいた。ガソリンを燃料にして、より楽しんでもらえるようになった」と話す。

絶え間ない開発努力で、ホビー用にとどまらず、国境や密漁を監視する無人機など産業用の需要も高い。現在販路は24カ国に及ぶ。

世界から評価される「SAITO」だが、従業員24人の約3割は65歳以上で、後継者不足は課題の一つ。ただ、3Dプリンターを導入するなど、新技術に対する探究心は衰えない。

満社長は「ここでしか作れないものを製造している。開発は怠らない。次はどのようなエンジンをつくるか考えている」。

小さなエンジンに技術を詰め込み、将来も世界で存在感を発揮していく。“後継候補”の長男で常務取締役の巧さん(39)が、満社長の熱い思いをしっかりと支えている。



© 千葉日報社 自社で作った模型用エンジンを見つめる満社長（右）と齊藤巧常務取締役